

科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリーの運営について

1 概要

- ・ 資料室スペースの狭隘化と県立高校の統廃合による空き教室の有効活用の課題を背景に、川崎図書館と神資研が協同し実現した事業。
- ・ 文化遺産課収蔵センター（旧野庭高校：横浜市港南区）内、22 教室を使用。
- ・ 2004 年から運営を開始し、所蔵タイトルは、10 社 490 タイトルから、1,780 タイトルまで増加。
- ・ 共同保存ではなく、寄贈により川崎図書館の所蔵資料となる。
- ・ 10 年を経過したところで、図書館学の専門家に依頼し、コレクション評価を実施。

2 構想(2002 年)

(1) 必要性

- ・ 科学技術系の雑誌は時間の経過とともに、利用頻度は減じていくが、研究者が参照する基礎的な論文は古い雑誌に掲載されていることが多い。
- ・ 先行の研究成果の参照は重要で、特許の係争についていえば、20 年以上遡及して調査が求められることもある。
- ・ これまでも川崎図書館は、統廃合された企業の資料室から資料を受け入れていたが、現状の保存スペースでは限界がある。

(2) 効果

- ・ 企業の資料室が、多額の資料費で購入してきた雑誌の散逸を防ぐことができる。
- ・ 川崎図書館では、蔵書構成上、手薄な科学技術系洋雑誌の充実を図り、多様なニーズに対応することができると同時に、県民共有の財産として有効利用できる。
- ・ 各資料室がデポジット・ライブラリーに提供する雑誌は、インパクトファクターの高い雑誌が含まれており、国内有数のコレクションとなりうる。

3 主な経過

2001	・ 理事会で、共同保存・共同利用のためのデポジット・ライブラリー構築の提案 ・ アンケート調査を実施（126 機関配布、60 機関から回収）する。デポジット・ライブラリーの必要性を認める（70%）、資料を提供できる（40%）の回答あり。
2002	・ 検討委員会発足（6 回開催） ・ 『「科学技術系学術雑誌デポジット・ライブラリー」構想について（提案）』をまとめ、ホームページに公開。 ・ 旧野庭高校の暫定利用が可能となる。
2003	・ 10 社から野庭に資料の搬送が始まる。
2004	・ 会員機関から提供された書架の組み立て。 ・ 4 月より川崎図書館の事業として正式に運営開始。川崎図書館連絡車の巡回開始。非常勤職員の配置。
2005	「現地視察と意見交換の会」を開催。以後、毎年実施。
2006	野庭から文献複写の郵送サービスを開始。
2012	連絡車廃止に伴い、宅配便の運行開始。野庭からの文献の郵送は取り止め。
2014	10 周年を迎え、コレクション評価（委託研究）の実施を総会で提案。
2015	佐藤翔『神奈川県立川崎図書館「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」のコレクション評価』がまとまる。

4 利用状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
洋雑誌 (冊数)	684	584	1,731	475	400	1,488
コピー枚数	1,431	2,172	2,563	1,542	1,445	1,274

5 利用方法

(1) 資料検索

- ・ 当館所蔵検索 (OPAC)
- ・ 「科学技術系外国語雑誌目録 (PDF)」 → ホームページ上に公開 (最新版)
- ・ Cinii Books

(2) 資料の取り寄せ・複写

- ・ 一般利用者
図書館に出納依頼をし、後日、閲覧・複写を行う。郵送複写の依頼はホームページから可能。
- ・ 神資研会員
会員は、在宅利用文献複写サービスにより、郵送複写などを依頼できる。

6 コレクション評価 (2015 年)

- ・ 同志社大学免許資格課程センター 佐藤翔助教 (論文や雑誌の引用数に基づいて評価するビブリオメトリクスという手法の研究あり) に委託。2015 年 10 月にホームページに公開。
- ・ 「構想」の効果 (目標) が実現されているかどうかを評価する。

(1) コレクション全体像の評価

- ・ タイトル数、所蔵年の分布を他の大学図書館と比較
→ 県内の大学図書館と比較して 10 指に入る。1990 年代後半と 2000 年代前半にピーク
- ・ Scopus の採録雑誌リストと照合
→ 電気・電子工学、機械工学、化学分野が多い傾向。オープンアクセス誌は少ない
- ・ インパクトの評価
→ Scopus (分野ごとの差異を反映している) で、評価の高い雑誌を所蔵

(2) 神奈川県内の文献需要とのマッチング調査

- 県内の企業、研究所に所属している研究者の発表している雑誌のリストの所蔵状況の調査
- 神資研会員企業の研究者の論文発表誌の所蔵率は 20.8% と少ないが、掲載論文数の多い上位 100 誌をみると 53% 所蔵がある。

(3) コレクションの代替困難性の評価

- 大学図書館、国会図書館所蔵の雑誌と比較
- NDL に所蔵なし 226 誌 (約 10%)、大学にないものは 1 タイトルのみ。ただし、多くの雑誌が 2~8 館程度の所蔵